

# 尻別川の未来を考えるオビラメの会

設立：H8  
所在地：ニセコ町

## 団体の概要

「尻別川の未来を考えるオビラメの会」は、絶滅危惧種イトウ(サケ科)の尻別川個体群(道内の南限)の復元を目指しています。

昭和期の急激な土地利用変化にともない、尻別川では同種の繁殖環境がすっかり失われてしまいました。その復元を目指して平成16年、同川支流の倶登山川で、イトウの再導入(補充)試験を開始。合わせて落差工の魚道設置などを進めたところ、平成27年には、同川での自然繁殖再開が確認されました。

また、流域にわずかに残る繁殖地を保護するため、繁殖期の24時間パトロールを行うなどしています。

この活動でイトウ尻別川個体群はかろうじて絶滅危機を脱したと考えられますが、予断を許しません。保護管理制度の創設もふくむ地域ぐるみの取り組みが必要です。



# 団体の取組

## ○イトウの再導入

国際自然保護連合 (IUCN) の再導入指針に従い、尻別イトウの遺伝資源保存のために、二セコ・倶知安両町内に飼育池を設置しています。

施設で人工孵化させた稚魚を計画的に尻別川に戻し、自然繁殖再開の呼び水にするのが目的です。

この試みは世界初のイトウ再導入実験成功という成果につながり、日本ユネスコ協会の「未来遺産プロジェクト2015」に選定されるなど、高い評価を得ています。

